

化学療法前の情報提供により有害事象の発現を回避した例

プレアボイドとは薬学的ケアから患者の不利益（副作用、相互作用、治療効果不十分など）を回避あるいは軽減した事例を意味します。今回は、化学療法前に B 型肝炎ウイルスの感染に関する情報を提供し、B 型肝炎ウイルスの活性化を回避できたプレアボイドを紹介いたします。

患者背景

▶初回化学療法目的で入院された患者

化学療法開始 2 週間前の採血結果（外来）
HBs 抗原：陽性
HBV-DNA：3.0 LogIU/mL
AST：23 U/L、ALT：29 U/L



F さん

化学療法前日

明日から化学療法を予定している F さんですが、2 週間前の採血結果で、HBs 抗原が陽性、HBV-DNA が 3.0 LogIU/mL となっており、B 型肝炎ウイルスの感染が疑われます。化学療法により、B 型肝炎ウイルスの活性化の恐れがあるため、B 型肝炎の抗ウイルス薬（核酸アナログ）の投与が推奨されておりますが¹⁾、F さんは現在服用されておらず、肝臓内科への受診もされていないようです。

情報提供をありがとうございます。すぐに肝臓内科に連絡して、核酸アナログによる治療を依頼します。

ありがとうございます。
今後も定期的に、HBV-DNA の検査をお願いします。



医師



薬剤師

担当医への確認後、すぐに肝臓内科に紹介され、B 型肝炎の抗ウイルス薬であるベムリディ錠の内服が開始となった。
化学療法は予定通り施行され、肝機能の悪化なく経過して外来での治療に移行した。
2クール目の化学療法時に HBV-DNA が再検査され、検出されなかった。

化学療法前に採血結果を確認し、B 型肝炎ウイルスの感染に関する情報提供を行うことで、B 型肝炎ウイルスの活性化を回避でき、安全な薬物療法の提供に貢献できた。